

## 「みんなで知ろう！取り組もう！食品ロス削減」議事要旨

---

### (開催要領)

- 1.開催日時: 令和2年 11 月 22 日(日)13:00~14:59
- 2.場 所: 南海放送株式会社
- 3.登壇者 :
  - 消費者庁 政策立案総括審議官 津垣修一
  - 消費者庁 消費者教育推進課食品ロス削減推進室長 杉田敬一
  - ごみ清掃芸人、マシガンズ 滝沢秀一(VTR出演)
  - 松山市環境部 副部長 中島 郁
  - 愛媛県食生活改善推進連絡協議会 会長 西村恭子
  - 株式会社ハローズ 商品ライン本部 商品管理室長 太田光一
  - 美作大学 食品ロス削減サークル 部長 小原瑞祈
  - 美作大学 食品ロス削減サークル 副部長 宮里弘夏
  - 全国おいしい食べきり運動ネットワーク協議会 会長 崎田裕子

### (プログラム)

- 1.開会挨拶 津垣修一
- 2.施策説明 「with コロナ時代の消費者行政」 杉田敬一
- 3.第1部講演① 「私の食品ロスへの想い」滝沢秀一(VTR出演)
- 4.第2部パネルディスカッション 「私たちの食品ロス削減アクション」
  - ファシリテーター 津垣修一
  - パネリスト 中島 郁/西村恭子/太田光一/小原瑞祈/宮里弘夏/崎田裕子
- 5.第3部講演②「地域で食品ロス削減を進めるためには」崎田裕子
- 6.閉会挨拶 杉田敬一

\* 敬称略・順不同

---

### 1.開会挨拶

我が国では食料自給率が低く、食料の多くを海外に依存しているなか、多くの食品ロスが発生しています。食料を捨てるということは、経済的な損失や環境への影響など、様々な問題を引き起こします。

食品ロス削減のためには、国民各層がこの問題を「他人事」ではなく、「我が事」として捉え、「理解」するだけにとどまらず「行動」することが必要です。

本日のシンポジウムが、行動へのきっかけとなることを期待しています。

## 2. 施策説明 「with コロナ時代の消費者行政」

消費者庁では、今までも行ってきた消費者保護や消費者教育の推進をベースとし、これからは、デジタル化、災害などの緊急時等の課題への対応や、持続可能な社会の構築に向けた消費者と事業者のさらなる協働のための取組が重要となっています。

また、持続可能な開発目標が 2015 年に国連サミットで採択され、日本でも取組が進められており、消費者庁は主に目標 12 の「つくる責任、つかう責任」を担っています。持続可能な社会の実現に向けた社会的課題を解決するためには、事業者の取組を促すと同時に、消費者の倫理的な行動を促すことが不可欠な状況となっています。

こうした消費者、事業者、行政の「協働」により取り組むべき課題の一つが食品ロスの問題です。日本の食品ロス量は 612 万トン(平成 29 年度)と推計されています。昨年 10 月に「食品ロスの削減の推進に関する法律」が施行され、食品ロス削減を国民運動として推進していくことが明確化されました。消費者、事業者双方の食品ロス削減の取組を促すため、政府では関係省庁が連携・協力して取り組んでいますし、地方公共団体での取組も不可欠です。皆様を始め、一緒に取り組んでいければと考えています。

### 3. 第 1 部講演① 「私の食品ロスへの想い」

芸人の傍らごみ清掃員として働いている中で、まだ食べられるにもかかわらず、様々な食品がごみとして捨てられているのを目の当たりにしてきました。また、福祉施設に集められた(スーパーで廃棄される予定だった)食品の多さを見て驚きました。

食品ロスの削減には、企業・消費者・行政が三位一体となって取り組んでいく必要があります。

人がごみと思った瞬間に、そのものはごみになります。私は「3R(Reduce、Reuse、Recycle)」に「Respect(リスペクト)」を追加して「4R」としたいと思っています。個人それぞれが、生産者や食べ物、周囲に対して、敬意を払うことが大事です。そうした気持ちがあれば、食品ロスを少なくしていけるのではないかと思います。

### 4. 第 2 部 パネルディスカッション 「私たちの食品ロス削減アクション」

#### ① 中島

松山市は、平成 25 年に環境モデル都市に選出、今年 7 月には SDGs 未来都市に選出され、人口 50 万人以上の都市の中で、1 人 1 日当たりのごみ排出量が、これまで 10 回全国で最小となるなど、市民と一体となったごみ減量リサイクルを進めています。生ごみの約 8 割は水分であることに着目し、「ピクトグラム」を募集し最優秀賞にデザイン科の高校生が選ばれ、このピクトグラムを活用した水切り紙袋を作成し、啓発しています。飲食店での「3010(さんまるいちまる)運動」に加え、冷蔵庫チェックにも取り組み、「楽しく食べきり、食べ残しゼロのまち松山」を目指しています。

#### ② 西村

愛媛県食生活改善推進連絡協議会は、昭和 49 年に設立、県内 20 市町 4099 人の会員がいます。私達は食育アドバイザーとして地域の一人一人の健康を守りながら、食文化の伝承、郷土料理を大切に、ライフステージに応じた講座、親子料理教室など、大学祭や商店街でも、野菜・魚を食べよう PR や食品ロス削減の活動をおこなっています。

県の愛顔の E-IYO(えいよう)プロジェクト事業に合わせ、野菜の上手な活用の冊子や、「愛媛県おいしい食べきり宣言事業所」に団体登録をして、会員の意識向上を図っています。食料資源を大切に、食品ロスをなくすことに努めています。ローリングストックで食べながら備えることを積極的に進めて、食材を使いきるアイデアエコレシピなども紹介しています。調理の技術、メニュー、体験を情報共有して、活動の輪を広げています。

### ③太田

フードバンクアリスというのは倉敷市にある障害者就労支援施設で、弊社と二人三脚で活動しています。ハローズモデルは店舗の近くの支援団体が店舗に直接取りに行くという仕組みなので、消費期限ギリギリの商品、青果、乳製品も出せます。

同業他社へもお願いして中四国地区では多くのスーパーさんにご賛同頂いて提供中です。

平成 30 年の西日本豪雨の時はアリスと共同で地元のボランティア団体と協力して 1 年以上提供しました。岡山県内では 8 割超のスーパーにご協力いただいています。食品を扱う全ての方々と問題意識を共有して、取り組ませていただければと存じます。

### ④小原・宮里

地域の一人暮らしをしている高齢者など大人の方にも気軽に参加してほしいという願いから「みんな食堂」という名前で、オレンジハート職員さん、ソロプチミストの方々と、フードバンクで集まった食材などを用いて献立を考えたりして、共に活動しています。

商店街のイベントでは、大人 300 円、子供は無料で提供し、みんな食堂や食品ロス削減についてフードバンクについて PR しました。学園祭では家庭で余っている食品を持ち寄り、必要としている社会福祉団体や施設の方に寄付するフードドライブ活動を行いました。食品ロス削減を子どもにも普及するために、すごろく、かるた、紙芝居などで活動しています。

### ⑤崎田

全国おいしい食べきり運動ネットワーク協議会は、現在 47 都道府県全くと 380 の市区町村に参加いただき、食品ロス削減に関して、ホームページにて情報共有しています。

10 月は食品ロス削減月間、12 月、1 月は全国共同キャンペーンをしており、今はコロナに十分配慮しながらですが、宴会 5 か条とか 3010 運動とか呼びかけが分かりやすく全国に広がっています。小売店とか外食の企業と連携協定を結んで、事業者、家庭、自治体、みんなで取り組みを広げていながら国の目標となっている 2030 年度に 2000 年度比食品ロス半減という目標をみんなで実現させることに貢献していこうと思います。

## 5.第3部講演②「地域で食品ロス削減を進めるためには」

世界で生産される食料 40 億トンの 3 分の 1、13 億トンが食品廃棄物になっているという驚くべきデータがあります。一方世界には栄養不足で困っておられる方が 8 億人以上。

日本では食品ロスの削減に向けて、2030年度に2000年度比、半減目標が定められました。

家庭での取組みとして、食品の使いきり・料理の食べきりが大事。外食やホテル、食品小売業では、食べきる店づくりで経営強化、自己責任で持ち帰りなど。宴席では幹事さんに食べきりの協力の呼び掛けなど、with コロナ、ステイホームなど新しい生活様式の中で、お店が仕入れた食材を美味しく食べてもらうための工夫も。企業や農家などで大量に出してしまう場合、フードバンクを活用するなどみんなで工夫しながら食品ロス削減を進めていければと思います。

## 6.閉会挨拶

食品ロス削減に向けて全国各地でさまざまな取り組みが行われております。消費者庁としても、引き続き、食品ロス削減を国民運動として推進していくため、関係省庁と連携して取り組んでいきます。

以上